

「働く場」の拡充を図ることができ、また障害者が働く姿を市民が目にすることにより、ノーマライゼーション（すべての人が社会で等しく普通に生活できるようにすること）の理念の普及・実現にも役立つものといえます。

もう一度ゼロベースで見直しを！

私は、シルバーとの契約や随意契約が悪いと言っている訳ではありません！今回の一般質問では、統括する窓口がないことで業務全体を把握・管理出来ていないことによる弊害の例として、シルバーへの95件の業務委託契約について挙げました。そしてこれについてはノーマライゼーションの観点からも、適正な執行を期待して再度ゼロベースから見直して頂くようお願いしました。

一般質問② 外国人へのゴミ分別の周知



現在川越市には、74ヶ国、約4,500人の外国籍の方が住んでいます。人数別では、中国の方が3割、続いてフィリピン、韓国・朝鮮、ブラジル、タイ、米国となっています。

他の地域でも同じ問題を抱えている？

今回の質問は、近所の外国人にゴミの分別を守ってもらえないと訴える方からの相談がきっかけでした。しかし、調べるうちに日本人でも分かりにくく、なかなか守ってもらえないゴミの分別を、文化も習慣も違う外国の方に分かってもらうには、それなりの対策が必要で、川越市はそれが出来ていなかつたことが解りました。

川越に住むとなれば、外国籍の方は市役所で外国人登録をすることになります。その時に市では、関係書類と共にさまざまな行政情報や生活情報が書かれてある「市民のしおり」を渡していましたが、それが全員に渡っていなかったのも問題でした。実際には、ご自由にお持ち帰り下さいというスタンスで、多くの方が持ち帰っていました。外国人登録という唯一といつてもいい情報伝達の機会を逃している現状から、他の地域でもおそらく同じような問題が起きていることでしょう。

伝えるべき情報をしっかりと伝えよ！

なんと今議会中に、新しく6カ国語の「ゴミの分け方出し方」のパンフレットが出来上りました。これが手に渡った時点でようやく日本人と同じ情報を手に出来た事になります。今回私は、場合によっては個別指導も含め、できる限りの方法を考え、周知を図る必要があると訴えました。



本当の国際都市をめざせ！

一般質問の準備をするうち、これがゴミの出し方の問題ではなく、本当は外国の方を市や住民がどのように受け入れているのか、という問題なのだと感じました。言葉も分からず、知り合いもいない、文化も習慣も違う異国に来て、生活することの大変さは想像に難くなく、いかにコミュニティの一員として迎え入れができるかがこのような問題を解決する上で重要なのではないでしょうか。観光都市川越が本当の国際都市になるためのハードルのように感じました。